

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

|       |                                   |        |      |
|-------|-----------------------------------|--------|------|
| 研究課題名 | 核・オルガネラコンソーシアムによる<br>真核細胞の構築原理の研究 | 研究代表者名 | 田中 寛 |
|-------|-----------------------------------|--------|------|

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア  高い
- イ  やや高い
- ウ  やや低い
- エ  低い

意見：  
ユニークな材料を用いた学術創成研究にふさわしい新しい内容を持った研究であり、一層の発展が期待される。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア  予定以上に進展している
- イ  概ね予定どおり進展している
- ウ  やや遅れている
- エ  遅れている

意見：  
概ね予定どおり着実に進展しており、形質転換系が確立されれば更に飛躍的な展開が期待される。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア  研究経費
- イ  設 備
- ウ  組 織
- エ  そ の 他

意見：  
特に問題となる点はないが、最終年度にそれまでと同程度の設備備品費が計上されているのが気になる。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア  期待以上の成果をあげている
- イ  概ね期待された成果をあげている
- ウ  期待された成果をあげつつある
- エ  期待された成果はあがっていない

意見：  
葉緑体から核へのシグナルを発見するなど高く評価される成果をあげ、その他にも順次公表が期待される多くのまとまった成果をあげている。

#### 4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

- ア ( × ) 有機的に連携が保たれている
- イ ( ) あまり有機的に連携が保たれていない
- ウ ( ) その他

意見：  
異なる分野の専門家が分担して研究を進めており、これまでのところは少ないが、今後共著の論文も順次発表されていくと期待される。

#### 5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

- ア ( × ) 効率的・効果的に使用されている
- イ ( ) あまり効率的・効果的に使用されていない
- ウ ( ) その他

意見：

#### 6 研究課題の総合的な評価

| 該当欄 |     | 評価結果   |
|-----|-----|--|
|     | A + | 当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる                 |
| ×   | A   | 当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる             |
|     | B   | 当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である                   |
|     | C   | 当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |

##### 総合的な評価意見：

葉緑体とミトコンドリアを一つずつしか持たないシゾンを使って異なる分野の専門家が連携して研究を進め、葉緑体から核へのシグナルを発見するなど学術創成研究に相応しい新しい領域を切りひらく内容の研究が順調に進められており、期待通りの成果を着実にあげていくことが大いに見込まれる。今後、形質転換系の確立による更なる研究の展開、このユニークな系から得られる成果の普遍性の検証にも大いに期待したい。